

伊丹市の認知症施策について

本市では、認知症の人の意志が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指し「認知症施策推進総合戦略」（新オレンジプラン）を踏まえて認知症施策を推進しております。

本市の認知症の状況と取り組みおよび課題について報告させていただきます。

1. 平成30年度 本市の認知症に係る統計について

1) 認知症高齢者（要介護・要支援認定者のうち日常生活自立度Ⅱ以上）数

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
認知症 高齢者数	4,491	4,805	5,205
高齢者人口に 占める割合	9.1%	9.6%	10.2%

2) 認知症の相談実績

(1) 相談件数と相談者の内訳

包括名	相談件数	相談内訳		
		本人	家族	関係者
天神川・荻野 (伊丹荒牧デｲｰﾋﾞｾﾝﾀｰ内)	1,111	126	277	708
稲野・鴻池 (特別養護老人ホーム桃寿園内)	481	60	131	290
伊丹・摂陽 (伊丹中央デｲｰﾋﾞｾﾝﾀｰ内)	1,120	137	246	737
笹原・鈴原 (ﾗｽﾀｰﾎｰﾙ内)	1,269	171	343	755
桜台・池尻 (特別養護老人ホームあそか苑内)	253	21	82	150
花里・昆陽里 (特別養護老人ホーム伸幸苑内)	518	45	176	297
神津・有岡 (特別養護老人ホーム協同の苑ｲｹｲﾐｾﾝ・ときめき内)	496	52	141	303
緑丘・瑞穂 (在宅複合型施設ぐる〜りあ内)	819	96	243	480
南 (特別養護老人ホームｱﾝｽ千歳内)	756	94	161	501
基幹型 (いたみいきいきプラザ内)	319	23	58	238
合計	7,142	825	1,858	4,459

(2) 相談内訳（複数回答可）

認知症自己 チェックの相談	医療機関情報	医療機関 受診拒否	介護保険・ 生活支援	集いの場	見守り・ 行方不明対応
24	867	45	2,412	129	211
家族支援	就労	経済（年金・ 金銭管理等）	権利擁護	運転免許関係	その他
325	5	306	1,114	12	4,252

3) もの忘れ検診受診結果

※もの忘れ検診は伊丹市国保特定健診（内 65 歳以上）と後期高齢者健診と同時実施

内訳		合計	天・荻	稲・鴻	伊・摂	笹・鈴	桜・池	花・昆	神・有	緑・瑞	南
総受診者数		13,966									
要二次検査		268	67	33	47	30	18	27	21	13	12
	連絡つかず	114	33	8	29	5	13	10	10	2	4
	未受診	76	23	6	12	23	3	0	4	0	5
		78	11	19	6	2	2	17	7	11	3
	二次検査 受診										
	異常なし	5	0	0	0	1	0	1	2	1	0
	要経過観察	64	10	19	5	0	0	14	5	9	2
	要鑑別診断	5	1	0	0	0	2	1	0	1	0
	要治療	3	0	0	1	1	0	0	0	0	1
	不明	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0

2. 地域ケア会議等で抽出された認知症に係る地域課題について

- ・住民の集いの場の参加者が認知症になり、周囲が対応に困惑した。
- ・民生委員や民生協力員が認知症になり、どこまで役割をお願いするか等に悩んだ。
- ・住民の集いの場に参加したいが、会場までの往復が1人では不安で参加できない。
- ・本人が参加できる場が少ない。地域の喫茶店等でも気軽に立ち寄れる場所になってほしい。
- ・認知症カフェに本人・家族の参加が少ない。

3. 伊丹市の認知症への取り組みについて

（伊丹市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（第7期）より）

1) 認知症予防・正しい理解の促進

(1) 認知症予防

もの忘れ検診を医師会と協働で実施し、ハイリスク者の早期発見、地域包括支援センターより医療機関への相談を勧奨。

(2) 正しい理解の促進

①認知症キャラバン・メイトの活動支援

認知症キャラバン・メイトの認知症サポーター養成講座の開催について積極的に支援を行う。

②認知症サポーターの養成と活動支援

認知症サポーター養成講座の開催。特に市内の小中高校生を対象にした認知症サポーター養

成講座の実施。

(3) 若年性認知症施策の強化

若年性認知症の知識の普及啓発と早期診断・早期対応へつなげる。「ものづくりカフェ」において当事者及び家族介護者と支援者がつながれる支援を行う。

<伊丹市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（第7期）の目標と実績>

取組内容	成果指標 (単位)		2018	2019	2020	2025
認知症・ロコモティブシンドローム早期発見支援事業	検診受診者数 (人)	目標値	14,601	15,093	16,115	19,309
		実績値	13,966			
認知症キャラバン・メイトの活動支援	認知症サポーター養成講座開催回数(回)	目標値	50	50	50	50
		実績値	81			
認知症サポーターの養成	認知症サポーター数(人)	目標値	7500	8000	8500	11,000
		実績値	10,556			
教育機関(小中高)での養成講座開催	開催回数(回)	目標値	5	6	7	10
		実績値	12			
ものづくりカフェ(若年性認知症支援)	開催回数(回)	目標値	12	12	12	12
		実績値	12			

2) 医療ネットワークとの連携

(1) 認知症に対する医療ネットワークの充実

①かかりつけ医等の対応向上やサポート医の養成

かかりつけ医による早期発見、専門医療機関への紹介へのネットワークの充実を図る。また、認知症サポート医を市や地域包括支援センターの連携推進役と位置づけ、認知症地域支援推進員と認知症初期集中支援チームの稼働により、医療介護の連携体制を構築する。

②歯科医院や薬局との連携

認知症と思われる高齢者と関わる機会が多い歯科医師や薬剤師等に対して、介護サービスや日常生活支援の利用につなぐための情報提供や、医療職と介護職が連携できる環境づくりを支援する。

③循環型の仕組みの構築

認知症の行動・心理症状や身体合併症等に対して医療機関・介護施設等で適切な治療・リハビリの実施や在宅に戻ってからも容態に合わせてサービスが提供される循環型の仕組みを構築。

＜伊丹市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（第7期）の目標と実績＞

取組内容	成果指標 (単位)		2018	2019	2020	2025
認知症初期集中支援	支援世帯数 (世帯)	目標値	5	6	7	12
		実績値	10			
	支援活動 のべ件数 (件)	目標値	15	18	21	36
		実績値	72			
認知症対応力向上研修 かかりつけ医研修会)	参加者数 (人)	目標値	150	150	150	150
		実績値	141			

3) 多職種協働による支援

(1) 認知症多職種協働研修推進事業

①認知症ケア多職種研究会

認知症に携わる関係団体代表らの情報共有及び課題検討を行う会を開催。

②認知症ケア多職種協働研修

認知症に携わる関係者のスキルアップ研修会を実施。

(2) 認知症地域支援推進員の設置

認知症の知識の普及・啓発活動の企画・調整、医療と介護等関係機関の連携支援、地域包括支援センターの後方支援や指導等を専門に実施。

＜伊丹市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（第7期）の目標と実績＞

取組内容	成果指標 (単位)		2018	2019	2020	2025
認知症多職種協働研修	参加者数 (人)	目標値	180	180	180	180
		実績値	249			

4) 家族介護者への支援

(1) 家族介護者への支援

GPS 機器の貸与、家族介護者教室にて介護方法を学ぶ機会を提供や介護マークの配布を実施。
市町村特別給付として認知症高齢者の見守り等事業を実施。

(2) 家族介護者同士の交流

「認知症カフェ」の運営支援。

＜伊丹市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（第7期）の目標と実績＞

取組内容	成果指標 (単位)		2018	2019	2020	2025
家族介護教室	参加者数 (人)	目標値	450	180	180	180
		実績値	334			

取組内容	成果指標 (単位)		2018	2019	2020	2025
介護マークの配布	新規配布 件数 (件)	目標値	28	28	28	28
		実績値	26			
認知症カフェ	開催箇所数 (箇所)	目標値	5	6	7	9
		実績値	5			

5) 認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進

(1) 見守りネットワークの強化

①地域における見守り

民生委員や地域包括支援センター等を中心に、特に独居や高齢夫婦のみの世帯など地域と協力して見守りを実施。「まちなかミマモルメ」の推進。

②関係機関との連携による見守り

市・警察・民間事業者等と連携し見守りを推進。「認知症高齢者等 SOS ネットワーク事業」により関係機関の見守り支援を強化。

③市特別給付「認知症高齢者等見守り等サービス事業」の継続

市の独自サービスとして、在宅の認知症高齢者にヘルパーが見守り・話し相手・外出介助を実施。

(2) 交通安全の確保

70歳以上の高齢者に市バス特別(無料)乗車証を交付。高齢者運転免許自主返納サポート協議会実施事業を支援。

<伊丹市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(第7期)の目標と実績>

取組内容	成果指標 (単位)		2018	2019	2020	2025
まちなかミマモルメ	利用者数 (人)	目標値	70	72	74	86
		実績値	92			
さがしてメール	利用者数 (人)	目標値	25	26	27	32
		実績値	10			
認知症高齢者見守り等 サービス (特別給付)	利用者数 (人/月)	目標値	43	46	48	62
		実績値	31			

4. 認知症初期集中支援チームについて

認知症初期集中支援チームとは、医師・看護師・社会福祉士等の専門職から構成されたチーム員が、認知症またはその疑いのある方について、介護や地域サービスの必要性を検討し、家族のサポートや地域の関係機関につなげるなどの関わりを開始した、初期の段階に包括的かつ

集中的に支援を行う取り組みである。

平成30年度の取り組みは「平成30（2018）年度 認知症初期集中支援チーム 実績報告（7ページ）」のとおりである。

5. 課題について

1) 早期発見・支援のための医療・介護連携

もの忘れ検診の結果、要二次検査と診断された人の約4割が連絡がつかないなどにより状況が把握できていない。そのため、医師会の認知症対応向上委員会において、もの忘れ検診受診後、連絡がつかない方に対して、医療機関と地域包括支援センターが情報共有し、協力して支援を行い、認知症の早期発見・早期対応につなげられるような仕組みづくりを検討中である。

また、認知症初期集中支援チームで支援した事例では、平成30年度実績の10件中、医療機関から地域包括支援センターに連絡があり支援が開始した事例は1件のみであった。

今後、医療機関を受診する高齢者のうち、地域における支援を必要とする方に関する情報共有や連携が、医療機関と地域包括支援センターの間で相互かつ日常的に行われることを目指した協力体制の強化を図りたいと考えている。

2) 認知症の正しい知識をもった地域住民による支援の充実

住民主体の集いの場（サロン等）でも、認知症の方への対応に困惑するという声が聞かれることから、引き続き認知症についての正しい知識の普及啓発に取り組む必要がある。

平成30年度末現在、累計で10,566人の認知症サポーターが誕生しているが、認知症サポーターの活躍できる場の整備が必要である。引き続き、広く市民に向けた認知症サポーター養成講座を開催するとともに、認知症サポーターによる見守りや声かけ、また認知症カフェへの参加等地域で活躍できる場や仕組みづくりが必要である。

また認知症カフェは市内5か所で開設しており、当事者やその家族の居場所として開催しているが、実際には当事者やその家族の参加が少ない状況である。

当事者や家族のニーズを把握し、地域住民の協力を得ながら、当事者や家族が気軽に参加するためには何が必要なのか検討し、医療機関に認知症カフェの案内を掲示してもらう、ケアマネジャーの協力を得て、利用者及びその家族に案内してもらう等、認知症カフェの周知を図ることが必要と考えている。